

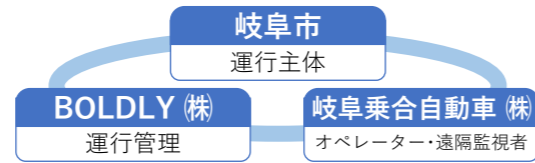
概要

1 目的

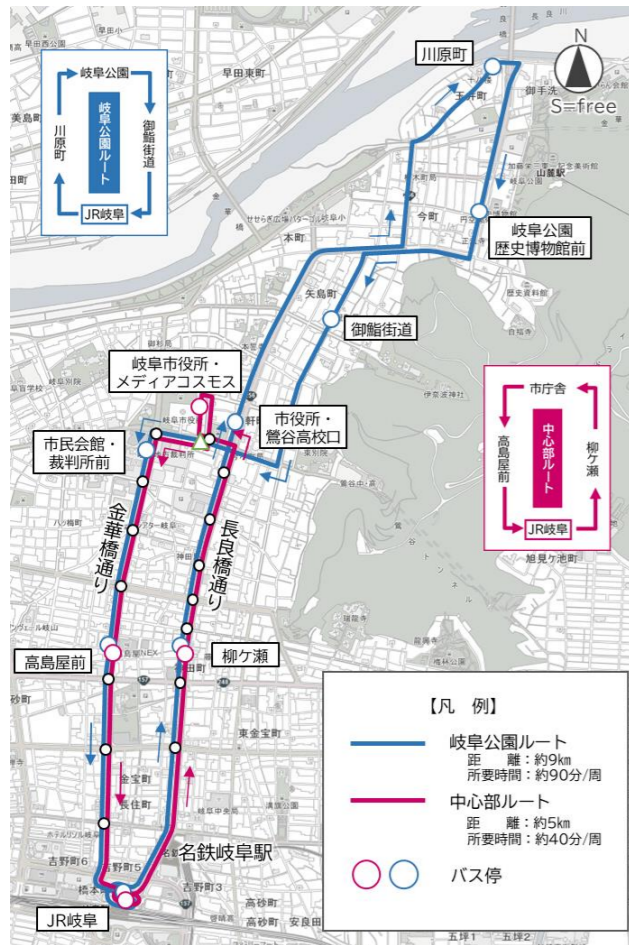
中心市街地や川原町、岐阜公園などの観光地を周遊する自動運転バスを5年間継続して運行し、段階的にインフラ整備を進めるとともに、社会受容性の向上を図りながら、レベル4での自動運転の実装を目指す

2 運行体制

自動運転車両運行に係る公募型プロポーザル(R5.4.10~5.26)を実施し、BOLDLY(株)を選定



3 走行ルート



4 運行スキーム

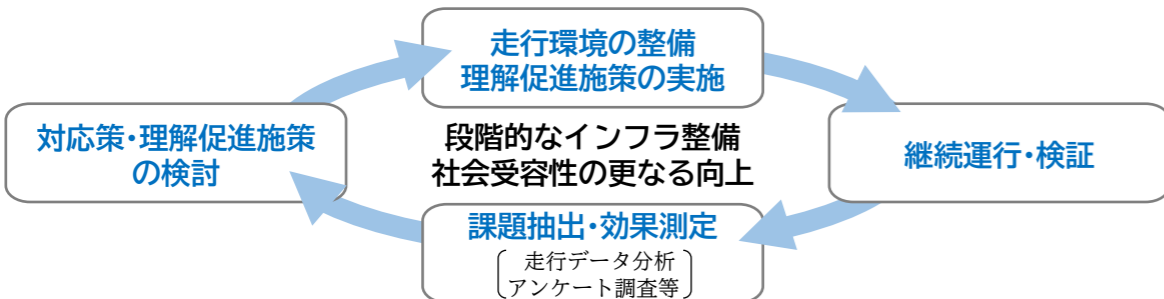
運行期間 R5.11.25 ~ R10.3.31(約5年間)
車両 ナビヤ アルマ 3台
自動運転レベル レベル2 (R9年度までにレベル4を目指す)
遠隔監視 監視員1人で3台を監視
運行便数 中心部ルート : 12便/日 (平日・休日 2台運行)
岐阜公園ルート: 3便/日 (休日 1台運行)
運行時間 10時 ~ 16時
運賃 無料
定員 10人 (オペレーター1人除く)
乗車方法 予約制 (利用状況を踏まえ、予約無での乗車を検討)
運行条件 雨天や雪など、悪天候時は運休予定

5-1 技術の検証

短期間の実験では把握できなかった季節や天候などの課題抽出と対応策を検討し、段階的なインフラ整備を実施

5-2 社会受容性の検証

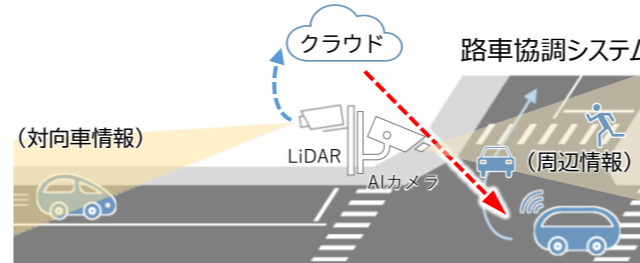
自動運転バスの走行について、市民の路上駐車や低速走行の許容などへの理解を深め、意識を醸成



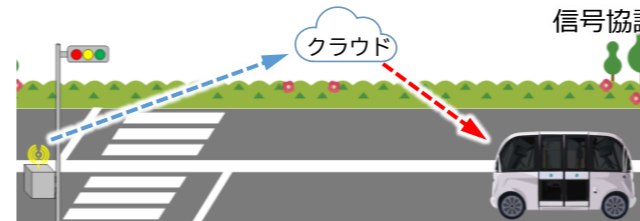
今年度からの取り組み

1 走行環境の整備 (インフラ整備等)

- ① 路車協調システム(インフラ協調)の整備
・路上のAIカメラ等で検知した交通状況を自動運転車へ情報提供するシステム
・横断歩道付近を検知エリアに追加
・AIカメラのほかLiDAR※も活用し精度向上
※LiDAR(Light Detection And Ranging) (赤外線レーザーを照射し、反射波を受光することで物体を検知)



- ② 信号協調の整備
・自動運転車に信号情報を提供する装置を設置
・走行ルート上の信号交差点全36箇所内、今年度は、中心部ルート15箇所を整備



- ③ 利便性の高い予約システムの構築
・LINEを活用し、乗車予約・バスロケーション・運休情報の配信など利便性向上を図る (電話での乗車予約にも対応)

人的流動の把握 社会受容性の分析 共創の場形成支援プログラムCOI-NEXTと連携

5年間の取り組み

- ① ルート上全ての信号交差点 (36箇所) における信号協調の整備
② 右折・合流地点等危険箇所における路車協調システム整備
③ 無人自動運転時の決済方法 (顔認証システム等) の検討
④ バス停の環境整備

2 社会受容性の向上

- ① 5年間の継続運行
・長期間走行することで走行特性等に対する理解、意識の醸成を図る
② バス停での乗降
・ルート上のバス停(9箇所)で乗降可能とすることで利便性の向上を図り、乗車機会の増大を目指す
③ モビリティマネジメント
・学校モビリティマネジメントを実施
④ 認知度向上に向けた取り組み
・公共交通のシンボルとなる、水戸岡鋭治氏のデザインによるバスラッピング、内装及びバス停の整備
・SNS等を活用した広報活動を継続して実施



段階的なインフラ整備と社会受容性の更なる向上に取り組み、5年の間にレベル4実現を目指す

産学官連携により持続可能な公共交通ネットワークを構築

公共交通の魅力向上、運転手不足への対応等により、公共交通を将来にわたって維持

日本初の中心市街地における自動運転を実現しトップランナーとして全国を牽引!